

しかない。たしかに売れるのですが配送におわれ充実感はなく疲労感しかない。しかもぜんぜんトキめかない。え？こんなことするために起業したんだっけ？わたしはやはり人とコミュニケーションしながら目の前で喜ぶ顔をみたいんだときづきネット販売や売れ筋商品を追いかけるのをやめ、自分がトキめくものだけ扱うようにしました。

何回でも 愛や感謝を伝える カルチャーをつくればいい

お客さまの90%ははたらく女性。自分で自分を輝かせるためにジュエリーを買われるのですが、10%が男性です。奥さまへのプレゼントに購入されるのですがあるとき「なんて言つて奥さまに渡しているのですか？」と聞くと「え？なんか言わなあかんの？」という答え。何人かに聞いてみたのですがみんな同じ答え。「いつもありがとー愛してるよー」とか言えばいいじゃないですか、奥さま喜ばれますよー！という「え…そんなん普段言つてないのにいきなり言つたら怪しまれるやんか…」。プレゼントは愛情表現なのでもっと膨らませませましようよ！といくら提案してもおよび腰。そこでカードを書いて渡しませんか？と提案すると渋々ですがOKをもらえた男性がいました。書く内容やわたすシーンもわたしが一緒にかんがえ、何回もリハーサルまでして(笑)実行してもらいました。実際に渡したあとにどうでしたか？とお聞きすると奥さまが嬉しくて号泣され、死んだときにはこの手紙を棺桶に入れてくれとまで言われた、こんなに妻がよろこぶとは思わなかったとすごく興奮して報告くださったのです。

そのときにわたしも涙が出るくらい嬉しく誇らしい気持ちになりました。キラキラした女性を作りたい！というのが起業のキッカケだったのですが、それだけでなくジュエリーを通して愛情表現を豊かにすることが自分の役割なんじゃないかと思いはじめたのです。

ジュエリーを通して愛溢れる世界を創る、わたしならできる！と思いついて「ジュエリーは形がある愛」の商標を取り、世のなかに広めていく決心をしました。しかし順調にのびていた売上が二か月間0になりました。コロナです。ジュエリーは不要不急。しかもわたしはすべて対面販売なのに人に会つてはいけない状態。あせりました。これがいったん立ち止まつて考えるチャンスなんだ！ととらえなおし現状を俯瞰してみました。そこで気づいたのは、ジュエリーは形のある愛だと広めていくのに私1人が言つていても時間がかかる、発信力が足りていないこと。愛情表現しやすいと言えば「プロポーズ」。そこでこのプロポーズを調べると、3割の人がしていいない。している男性でも女性からしたらもつとこう言つてはしかったとか「ストリートじゃなかった」とか納得していいない人が大多数。これ知ったときに「プロポーズには伸びしろがある」と思つたのです(笑)。さらに調べてみるとわたが未婚率の高さ。1度も結婚してないの50歳の時点で男性が3・5人に1人。女性が6人に1人。少子化と言われている根本原因はここ。結婚する人をふやさないと子どもは増えない。ということとはわたしも含め、すでに結婚している人がこれからの人にあんな夫婦になりたいと思つてもらうことが大事。そこで思いついたのが何回でも愛や感謝を伝えるカルチャーをつくればいい、そしてその

文化を普及させるための「協会をたちあげよう！」と思つたのです。

シアワセに貢献できたり、 立ち会っている喜び、 それが元気の源

そこで思いついたのが「エターナルプロポーズ」。エターナルとは「永遠の」という意味ですが、愛の表現として毎年プロポーズするのはピタリなコトバ。愛を言葉にして伝えることが少ないと感じる日本人だからこそ浸透させていきたい！なんだかワクワクがとまらなくなりすぐ商標もとりました。思いつくとすぐしないと気がすまない。これは父にそっくりな性格。エターナルプロポーズの際のレストランや用意するお花やジュエリーなどすべてプロデュースなどを進めるなかで世界遺産である京都の仁和寺さんとの縁がつながり、仁和寺さんで体験できる特別なサプライズのエターナルプロポーズもはじまりました。協会活動とは別なのですが、昨年の夏にはインド人のカップルが仁和寺さんを貸しきつてバラの花びらを敷き詰めてプロポーズされました、仁和寺さんの名前がこうして国際的に広がっていくのはすごく誇らしいことです。いま仁和寺さんで力をいれておられるのが『次世代支援・文化財保全・修繕』このエターナルプロポーズを通して仁和寺のファインになつて愛してもらい、子どもさんやお孫さんなど大切な家族を連れてまたお参りしてもらえたらまさにエターナルなのではと考えています。サプライズの花束を旦那さんが渡してるのとかを通行人のふりをしながらこっそり撮影してるときにすごくシアワセを感じます。人のシアワセに貢献できたり、その瞬間に立ち会っている喜び、それが今わたしの元気の源となっています。

結局のところ「人を勇気づける」のがわた

しすごく好きなのです。寄りそつて応援して力づける。そうすると人つて蛾がうつくしい蝶に羽化するようにある瞬間にブレイクスルーするのです。その瞬間をみるのが何よりも好き。傷つけあうよりも応援しあう関係のほうがいい。誰かが勝つよりもみんなで勝つ関係がいい。そんな考えが根本にあるのはやはりわたしが育つた商店街という環境にあります。いつも父が口酸っぱく言つていた「みんなで良くなるんだ」がやはりわたしの中心にあり、それぞれが自己表現をしながら社会に貢献していく。最初はその社会が小さいかもしれませんが、自分の成長とともに影響力のどどく範囲は広がっていく。人の可能性は無限大であり、わたしがその可能性をひらくキッカケになればこんなに嬉しいことはありません。パートナー同士が自分たちらしくいつも100%愛情表現をしている、そんな「いつも愛にプレゼンスがある世界」を創るために私の人生の時間を使っています。



6.私の通う中高のすぐ近くの学校に通っていらっしゃったというご縁もありました！7.ILSARTO PER LA DONNA(女性のためのイルサルト)がデビューした日にご予約をいただきお仕立て頂いたスーツ。泉さんの雰囲気にはピッタリですね(^^)

ジュエリーを通して
愛溢れる世界を創る、
わたしならできる